

9. 建築物

9-1. コタンの周囲の状況

子供の頃、農屋（ノヤサラコタン noyasar kotan）には、30軒のアイヌの家があった。和人も少しいた。シビチャリ川を川なりに（ペツ トウラシ pet turas）上って来ると、左側に農屋があり、右側に豊畑（ペラリ perari 豊畑）がある。その人をペラリ ウン クル perari un kur という。ペラリの山は3つ並んだ山だ。農屋にも豊畑にも河原にアイヌが住んでアキアジをとりシカやクマなどをとって暮らしていたが、大正11年か12年の山津波の大水害で家が流され、宝物も流されて、豊畑のアイヌのコタンは滅んでしまった。農屋でも丸木舟を持っている人は舟で逃げて助かり、馬を持っている人は、馬で丘に逃げて助かった。森崎の先祖も流されたが助かった。その後、豊畑には農屋から水害を逃れたアイヌが移住してきた。この大水害の時に大きな中島が農屋コタンの前にできた。

農屋では、川岸が低く、中島（モシリ mosir）が幾つもあった。川岸に近い平らで低いところにコタンがあったので、大水害でやられた。

ひいじいさん(祖父か?)は、森崎シノタといい、子供の頃は、農屋の酋長(コタン コル ニシパ kotan kor nispa)であった(その後、ワシヅカワシタロウが酋長になった)。

シノタの娘が、森崎幸雄氏の母親で父親の名前は知らない。母親の弟は、シノキチといい、妻マツエの父である。イトコ同士の結婚である。イトコ同士と知らないで結婚した。昭和14年に農屋から豊畑に引っ越して来た。

御園(旧名イチブ)は和人ばかりで、たまにウタリが住んでいた。明治に新潟や津軽から御料牧場に和人が移住してきた。昭和30年の大水害のときには、堤防ができていたが、それでも水害にやられた。川原よりも少し川から離れたところに家が建っていた。今は種畜牧場になっている。昔は、100年も前には、奥高見(ホカイエ ヌタブ hokaye nutap)にもコタンがあり、何軒かの家があったということだ。アイヌは穀物ではヒエ、アワ、イナキビしか知らない。後で植民の開拓者が入った。私の子供の頃は、農屋コタンが一番奥であった。

明治に入ってから戸籍を作るようになった。村長は、戸籍の名前がない人には、自分の名前をつけてやった。

コタンでも一番大きい家が、コタン コル ニシパ kotan kor nispa「村長」の家で、30軒くらいある村の中央にあったようだ。

[森崎幸雄氏]

シャクシャイン記念館のある場所はマウタ コタン mawta kotan という。秋田牧場のあたるあたりにコタン kotan「村」があった。

[森崎幸雄氏]

9-2. 家の建て方

家を建てたときは、チセカムイノミ cise kamuy nomi を行う。

[森崎幸雄氏]

9-3. 家屋の内部構造

9-3-1. 屋内とその配置

家の中の神様は5神ある。

- 1) ロッタ rotta「上座」にいるカムイ エカシ kamuy ekasi
- 2) チセ カムイ cise kamuy(huci)軒下にいる女神
- 3) アパサムンカムイ apasamunkamuy 戸口の神。これは夫婦の神で左が奥さんで右が夫だ
- 4) ミンダル コロ フチ mintar kor huci。外の玄関の2、3m向こうの便所の方向にイナウを立てる。外に小便に行くときにバチが当たらないように気を付けろと言われる。

[森崎幸雄氏]

アパサムンカムイ apasamunkamuy「戸口の神」は、男と女が一对になる。左側の方が男で右側が女。それぞれアパ ラルケ クル apa rarke kur とアパ ラルケ マツ apa rarke mat という。家の外に出るといろいろ危険な目に会うので守ってくれる神である。

[葛野辰次郎氏]

奥座敷の東の窓の所（ロルンプヤラ rorunpuyar）に座っているのが家の神で、カムイエカシ kamuy ekasi とも言うがシンヌ カムイ sinnukamuy という。この家の神は一軒一軒別な神である。この神の別名は、イセレマク ウシ カムイ iseremak us kamuy という。また、この神の正式な名前は、キナチャウノカ ノヤチャウノカ kinacawnoka, noyacawnoka という。

[葛野辰次郎氏]

敷きブトン（シキナ sikina）から作る。

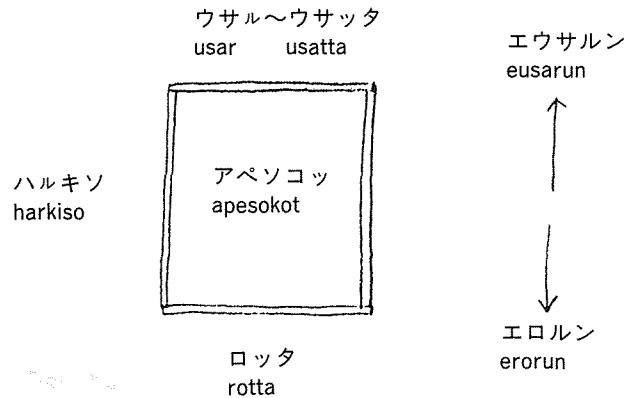
ノミ（タイキ tayki）、シラミ（ウルキ urki）がつかなくてよい。ノミは発疹チフスにかかると言って恐れられたという伝説がある。

アワモチ、イナキビを団子にしてから火棚（トゥナ tuna）の上で薫製にすることもある。

[森崎幸雄氏]

家の上座（ロッタ rotta）に神の窓（ロルンプヤル rorunpuyar）があった。神窓は川上に向いている。女がこの窓を開けたらだめだと言われた。道路側にもうひとつ窓（イトムンプヤル itomunpuyar）があった。

図17. 屋内配置図



[三石 M.H.]

9-3-2. 炉とその周辺

炉はアペソコッ apesokot、炉のロルンブヤル寄りの部分はアペエトク apeetok、炉縁木はイヌンペ inumpe という。炉が切ってあって炉縁木(イヌムベ inumpe)が4本あった。炉の上の2つの隅には丸太を切ったものが置いてあり、上手に向かって左の方の上に仏さんあげるお土産を置いた。

ウサッ usat「おき」、ウナ úna「灰(あく)」スプヤ アッテ supuya atte「煙を出す」。「炭」は何てイポルスセ iporusse(言葉で言う)するのか忘れた。「薪」をニ ni。ニ セ ワ エク ni se wa ek!「薪をしょって来い」。

鍋(スー su)は、ス ニ su ni(鍋掛け)から下げる。敬ってスニカムイ su ni kamuy「鍋掛けの神」と呼んでいた。

炉の上には火棚(トゥナ tuna)があってアプッキ aputki「スダレ」をしき、コキビ(トーキビ)、ヒエ、アワが干してあった。食べるときにニス nisu「白」とユタニ yútani「杵」でついて白にした。白をニス カムイ nisu kamuy「白の神」と言っていた。

女はロッタ rotta の上手を(カムイ エトコ ペカ kamuy etoko peka)歩くものではないとも言われた。

[三石 M.H.]

魚でもシカでもクマでも皆薫製にするために、火棚(トゥナ tuna)の上ですだれを敷いて置いた。

[森崎幸雄氏]

女は尻(けつ)が腐っているから(月経があるから)アペエトク ape etok に来られないことになっている。

[森崎幸雄氏]

9-4. 屋外の構造

倉は高い。4尺くらい。丸太を横にして、囲って造る。屋根はかやぶき。洪水よけだ。ネズミ(エルム ermu)対策は、スルク surku(ブシの毒)でネズミをやっつける。柱の上に仕掛ける。毒をまくのだ。

倉(プー pu)のはしごは木のまっか(又木)を縄(ハリキカ harkika)にしぼりつけた縄梯子。倉は1つか2つ。トランネカムイ toranne kamuy(怠け者)は、1つしか持っていない。大きい倉には毛皮、小さい倉には干し鮭、肉、ヒエ、アワ、ニコロマメ(ササゲ)などをしまう。サラニブ saranip「編み袋」にいれ、倉に棒を渡して下げる。

[森崎幸雄氏]

庭(ミンタラ mintar)の神も男と女がいるのではないか。ソユン ミンタラ soyun mintar「外庭」とアフン ミンタラ ahun mintar「内庭」それぞれに男神と女神がいるのではないか。ソユン ミンタラ カシ エブンキネ カムイ オイナ クル、カムイ オイナ マツ アコオンカミ ナ soyun mintar kasi epunkine kamuy oyna kur、kamuy oyna mat a=koonkami na と祭り事をやる時にいうから男女2神がいるのではないか。パセオンカミをまず最初にお祈りして、イチャルパ icarpa「先祖供養」やって最後に庭の神にお祈りするものだ。神様に捧げて残ったものはシラリ sirari「酒粕」しか残らないけれど、シラリを庭の神に捧げて無事に祭りが終わったことを告げる。

[葛野辰次郎氏]

水汲み場をワクカ タ ル wakka ta ru という。

[三石 M.H.]